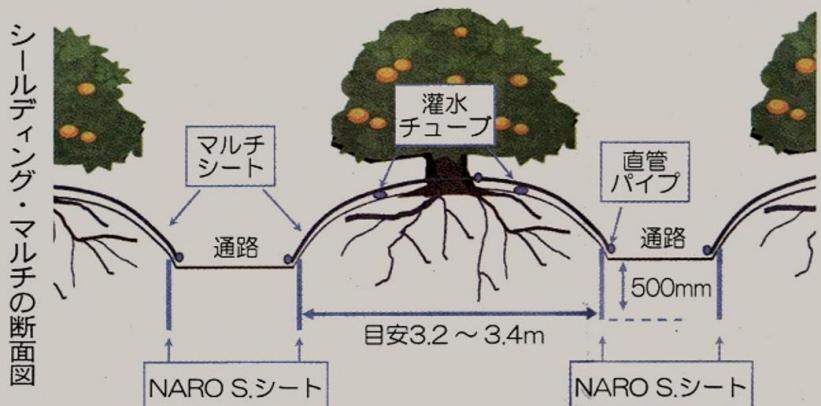


表 S.マルチ栽培「原口早生」の果実品質と経営評価試算

栽培方法	糖度 (Brix%)	酸含量 (g/100ml)	ブランド率 (%)	粗収益 (千円/10a)	経営費 (千円/10a)	所得 (千円/10a)
S.マルチ栽培	13.9	1.07	71.6	746	348	398
慣行マルチ栽培	12.4	0.86	60.2	683	310	373



ミカン、ブランド率アップ

シールディング・マルチ栽培の利点

ド率アップ、マルチ栽培の利点は、安定的に高品質果実を生産するため畠部への雨水流入を遮断するシリディング・マルチ（N A R O S・マルチ、以下「S・マルチ」）栽培が開発されている。そこで「原口早生」を用いてS・マルチ栽培の品質向上効果と経営評価について検討した。

収穫時の糖度はS・マルチ栽培が慣行マルチ栽培に比べ、1度以上高く、酸含量はS・マルチ栽培が慣行マルチ栽培より約3年6月に行い、農研機

（%）は、S・マルチ栽培が慣行マルチ栽培に比べ10倍程度高くなつた。

粗収益は、10kg当たりの出荷量3トで試算する（商品名=S・シート）と、S・マルチ栽培が慣行マルチ栽培より6万円程度多かつた。経営費は程度多かつた。経営費は

0・2%高くなつた。

なお、試験圃場でのS・マルチの施工は2002年6月に行い、農研機

現場で使える！研究成果

○・2%高くなつた。収穫時のブランド率(%)は、S・マルチ栽培が慣行マルチ栽培に比べ10%程度高くなつた。粗収益は、10t/ha当たりの出荷量3tで試算すると、S・マルチ栽培が慣行マルチ栽培より6万円程度多かつた。経営費はNARO S・シート(商品名=S・シート+)の減価償却費がかかり、慣行マルチ栽培より高かつたが、所得はS・マルチ栽培が慣行マルチ栽培に比べ、2・5万円程度増加した。

なお、試験圃場でのS・マルチの施工は2002年6月に行い、農研機

構発行の「カンキツにおけるシールディング・マルチ栽培（S・マルチ）の技術マニュアル」に基づき施工した。マニュアルは二次元コードから「覗いただきたい。」

（県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門 中里一郎）

